

2014年産カリフォルニア・アーモンド開花状況



カリフォルニア・アーモンドは現在、2014年産の開花時期を迎えており、2月17日現在で早生種であるソノラ種の開花率は50～60%、ノンパレル種の開花率は30～40%程度となっています。

アーモンドはミツバチの力を借りて受粉し、ミツバチの活動は天候によって大きく左右される事から、例年開花時期の天候に注目が集まります。しかしながら、弊社ニュース先月号でもお伝えしました通り、カリフォルニア州の水不足問題がより一層深刻化している状況から、ミツバチの受粉活動が活発となる晴天が望まれる一方、早魃状況を改善する降雨も切望されており、生産者側としても複雑な心境にあると言えます。

現在、カリフォルニア州の人口は3,700万人程度ですが、歴史的な早魃となった1976～1977年当時のカリフォルニア州の人口は1,800万人であり、ここ35年で生活水の必要量は単純計算で2倍になっている状況を考えてと深刻さが容易に想像できます。

開花直前の2月8日から10日にかけて、北部サクラメント地区では2.5インチ(約64mm)程度のまとまった降雨があり、恵みの雨となりましたが、累計降水量はいまだ25%程度であり、また山間部の積雪も例年に対し20%と厳しい状況が続いています。

こうした背景の中、現地相場はノンパレルEX#1 23/25でUS\$4.40-50/LBと、歴史的最高値となっていますが、一方で1月までの出荷実績は前年比105.3%と伸長しており、また現地サイドでは開花状況がどうであれ、2014年産は減産確実との意見も出ており、中長期的に見ても完全な売り手市場となっています。

